

## ヤコブの手紙2章20－24節 「信仰に現れた行い」

### 1A 神を信じたアブラハム

#### 1B 不完全な信仰

##### 1C 父との旅

##### 2C エジプトへの旅

#### 2B 成長する信仰

##### 1C ロトとの決別

##### 2C ロトの救出

#### 3B 義認

### 2A 無にされた肉の努力

#### 1B ハガルの子イシュマエル

#### 2B サラからの子

#### 3B 主の使いによる宣言

#### 4B 約束の子

### 3A 揺るぎない信仰

#### 1B ただ独りの愛する子

#### 2B モリヤ山への旅

##### 1C 復活の信仰

##### 2C 最後までに従順

### 4A 恵みによる成長

## 本文

ヤコブの手紙2章を開いてください。私たちは2章を一節ずつ、午後礼拝で学びたいですが、今朝は、20-24節を読みます。「<sup>20</sup> ああ愚かな人よ。あなたは、行いのない信仰が無益なことを知りたいのですか。<sup>21</sup> 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、行いによって義と認められたではありませんか。<sup>22</sup> あなたが見ているとおり、信仰がその行いとともに働き、信仰は行いによって完成されました。<sup>23</sup>「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。<sup>24</sup> 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことが分かるでしょう。」

私たちは、ヤコブの手紙の中で、一見、パウロの手紙が言っていることと、正反対のことを語っている箇所を読みました。義と認められるのは、信仰だけによるのではない。行いによって義と認められるのだと、ここにはありますね。けれども、パウロは、「ロマ 4:5 働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める人には、その信仰が義と認められます。」と言いました。そして、パウロもヤコ

づも、同じアブラハムの例を取って、そのことを論じているのです。今朝は、この二つが決して矛盾していないこと、そして、信仰による良い行いがどうなっているのかを、アブラハムの生涯から学んでいきたいと思います。

みなさんも、信仰と行いの関係について迷うことは、なかったでしょうか？私はありません。信仰によってであり、行いに拠るのではない、と言われると、信仰を持ってから何もなくてよいのか？と思いました。その反対に、信じるだけで救われたけれども、その後は行いによって救いを達成しないといけないとも思ったことがあります。これは、信仰と行いが別物であるかのように捉えているから、起こって来る矛盾と葛藤です。

### 1A 神を信じたアブラハム

おそらく、信仰を何か信条であるかのように捉えているからでしょう。信じることを、全幅の信頼と言い換えたらいかがでしょうか？信頼している人のいうことには聞き従います。信頼しているという言葉自体に、その人から言われたことを行っていくという意味合いが含まれていますね。この部分を、私たちはアブラハムから学ぶことができます。アブラハムは、ロマ書 4 章で、信仰によって、私たちの父であることが書かれています。(16 節)彼の生涯を追っていくことで、信仰と行いが、切って切り離せないものであることを、眺めていきたいと思います。

### 1B 不完全な信仰

最も大事なことは、アブラハムの信仰が初めから、これほど優れていなかったのではない、ということです。主に、自分の独り子を献げなさいと命じられた時に、そのまま従順になったのを見て、私たちはいかに、アブラハムは信仰に満ちて、その行いが優れていると思いますね。そして、説教においても、私たちも、自分にとって最も大事なものを、主の前に献げようなんて言われても、自分はそんな信仰深くないと思ってしまいます。

しかしそれは、木の幹につながっている枝から、実が結ばれているのを見て、その実を自分もふりしぼって出そうとしているようなものです。実だけを見て、つながっているイエスを見ないで、むしろ枝にしか過ぎない自分から、その実を出そうと考えるからです。自分自身には、神への従順も、良い行いも、何もよいものはないのです。しかし、アブラハムのこのすぐれた行いが、初めからそうだったのでは全くなく、その信仰はかなり中途半端でした。

### 1C 父との旅

彼は、ウルという町で生まれ育ち、そこで、「創世 12:1 あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」父の家を離れて、と言われていますが、彼は父テラと共に、旅を始めているのです。土地を離れたのですが、父からは離れませんでした。それで、月の神々が拝まれていたハランという町を、父が気に入ったので、そこに留まってしまっ

たのです。そして、父が死んで、主が告げられたとおりに出ていきました(4 節)。

私たちに身に覚えがないでしょうか？主から言われたことを行っても、すべてに従っているわけではないということ。そのために、次の主のみわざを見ることがないという問題です。アブラハムは、見事に、この中途半端な信仰だったのです。

## 2C エジプトへの旅

そしてアブラハムは、カナンの地に着き、祭壇を造り、主がここがあなたに与えた土地だと言われました。ところが、飢饉が起きました。すると彼は、そこに留まることせず、肥沃なエジプトに南下したのです。試練において、世が提供するものに走って行ってしまったのです。

そこで、彼はとんでもない過ちを犯しました。サラを妻ではなく、自分の妹だとファラオに対して偽りました。確かに腹違いの妹なのですが、しかし重要な妻であるという情報を与えなかったのです。それでファラオが彼女を自分の宮廷に召し入れました。(12:15)

しかし、とんでもない過ちを犯したのですが、主はアブラハムに罰を与えませんでした。それどころか、ファラオの宮廷に災いが来ました。サラによって神が約束の子を与えるということが、ファラオの子種によって阻まれるのを、神はよしとしなかったのです。確かにアブラハムを呪う者を、神は呪われたのです。このようにして、アブラハムは、主が憐れみに満ち、恵みに富む方であることを、自分の失敗を通して知ることとなりました。

## 2B 成長する信仰

そうですね、ここからアブラハムの信仰が成長するのです。彼は、主が気前の良い方、恵みの神であることを少しずつ、知るようになったのです。

## 1C ロトとの決別

そこで彼は、目に見えることに従わず、主の言われるところに留まるようになっていきます。甥にロトがいました。ロトの羊とアブラハムの羊が多くなって、土地が狭くなっていきました。羊飼いたちの争いも起きます。それでアブラハムは、ロトに譲るのです。あなたがどこに住むか、選びなさいと。するとロトは、エジプトでその豊かさの味をしめてしまっていました。ソドムがエジプトのように豊だったので、そこを選んだのです。

しかし、アブラハムは、約束の地に留まりました。そして、主が現れて語ってくださったのです。主が慰めてくださったのです。この土地を、あなたとあなたの子孫に永久に与えると。そして、子孫は地のちりのように数えられなくなるほど増えると言われました。

## 2C ロトの救出

そして、ソドムに住んでいたロトとその家族が、財産と共に、メソポタミアの王たちに連れ去られる事件が起こります。アブラハムが、自分のしもべたちを連れて、勇敢に戦いました。そして戻ってきたら、そこにサレムの王、いと高き方の祭司、メルキゼデクがいて、彼を祝福したのです。そして、ソドムの王もやってきましたが、彼からの褒美は一切、断りました。

## 3B 義認

そこで主が語られます、「恐れることはない、あなたには報いが大きい」と。戦った後で、彼には恐れが残っていました。けれども、主は確かに約束をかなえと言われたのです。けれども、彼には男の子がひとりも生まれていません。しかし、主は外に彼を出して、夜空を見せました。そこには無数の星があります。「あなたの子孫は、このようになる。」と言われました。それで、23 節にある、有名なことば、パウロもロマ 4 章で引用した言葉があります。「創世 15:6 **アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。**」

アブラムが主を信じたのですが、ここまで見て、分かりますね。これは、主への信頼です。これまで、主が良くしてくださったこと、この方の恵み深さを知りました。このことがあったので、彼は主と、その言われることに信頼を自然に置くようになったのです。そのような信頼こそが、神がよしとしておられます。

## 2A 無にされた肉の努力

しかし、彼は、その約束を自分の力で果たそうとします。

## 1B ハガルの子イシュマエル

何年たっても、子どもが与えられません。それで、サラがしびれを切らして、彼女の女奴隷であるハガルをアブラハムに与えて、彼女を通して子を産むようにしました。それで、イシュマエルが生まれました。するとハガルは生意気になり、サラがそれでハガルを虐め、お家騒動になりました。肉の力で動くと、必ず肉の働き、争いや混乱が起こりますね。

## 2B サラからの子

それから、十三年経ったとき、すなわちイシュマエルがもう成人になる時に、主は再びアブラハムに現れて、なんとサラから産まれる子が、約束の子であると告げられるのです。アブラハムは、もうイシュマエルが要るから安泰だと思っていましたが、いやいや、主は、もっとはるかにすぐれたことを、アブラハムのために用意しておられたのです。

同時にそれは、自分のこれまでの努力が無にされることを意味します。主を信じていきるのは、自分のしてきたことを否むことに他なりません。パウロは、自分のこれまでの功績を、ちりあくただ

とみなしました。

### 3B 主の使いによる宣言

そして、アブラハムのところに、三人の旅人が来ます。その中の一人は、主ご自身でした。主の使いでした。そして、来年の今頃、サラには男の子ができていると宣言します。その時の様子を、パウロは次のように説明しています。「ロマ 4:19-21 彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。不信仰になって神の約束を疑うようなことはなく、かえって信仰が強められて、神に栄光を帰し、神には約束したことを実行する力がある、と確信していました。」

分かりますか、アブラハムの信仰、神への信頼がますます増えていることを？主が約束したことを実行する力があることを知っていました。これまで、いろいろな失敗がありましたが、それでも主がよくしてくださるのを知ったので、まだこれから起こることも確信を持てたのです。

### 4B 約束の子

そして、主が言われたとおり、イサクが生まれます。残念なことに、イサクが乳離れする時に、イシュマエルがいじめたので、イシュマエルもハガルも、家から離れなければいけませんでした。肉の働きは、御霊の働きから取り除かれなければいけないのです。

## 3A 揺るぎない信仰

### 1B ただ独りの愛する子

そしてついに、イサクが育って、大きくなってから、主がアブラハムに命じたのです。「創 22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」」

いかがでしょうか？いきなり、この箇所から、主に自分の最も大切なものを献げなさい、という、行いによる義の内容ではないのです。アブラハムに、主がご自身の真実を示し続けて、そこにある信頼が育てられて、その信仰と共に、行いが伴ったのです。これが、ヤコブが言わんとしていることです。信仰は、神への深い信頼のことであり、神を知ることによって養われて、それにとまって、行ないに現れるということです。

### 2B モリヤ山への旅

#### 1C 復活の信仰

その証拠に、アブラハムには迷いはありませんでした。「創 22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、二人の若い者と一緒に息子イサクを連れて行った。アブラハムは全焼のささげ物のための薪を割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ向かって行った。」全く、迷うことなく、

たんと準備をしていったのです。

なぜなら、アブラハムには信仰が与えられていて、イサクを取り戻すという信仰まで与えられていました。「ヘブル 11:19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。それで彼は、比喩的に言えば、イサクを死者の中から取り戻したのです。」愛するただ独りの子、イサクを主は献げなさいと言われます。けれども、イサクから星の数のような子孫が与えられます。これをどちらも信じるならば、イサクを取り戻す、つまり復活すると信じたのです。ここでも、信仰からくる行いを描いています。

#### 2C 最後まで従順

そして、アブラハムは、主の使いが彼を呼びかけて、それでようやくアブラハムは、イサクを殺さずに済んだのです。もし主の使いの介入がなければ、彼はそのままイサクを屠っていたことでしょう。最後の最後まで、アブラハムは神に従順だったのです。そしてみ使いは最後に、アブラハムに対する祝福を誓いをもって宣言するのです。

#### 4A 恵みによる成長

これでよく、わかったのではないのでしょうか？あなたは信じているけれども、それでは足りない。行いを積み上げなければ、ということでは全くないのです！むしろ、積み上げるのではなく、掘り下げるのです。根が浅いので、すぐにつまづきます。しかし、アブラハムが証したのは、神への信頼が次第に、その真実が明らかにされるにつれて、増していくということです。そして、その信頼に、神に言われたことに従順になる行いが、加えて与えられています。

ペテロの第二の手紙の最後を読みます。「3:18 私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。」恵みにおいて成長するのです。イエスを知ることにおいて成長するのです。そうすれば、自分が主に信頼して、その言われたことを守り行う時に、それはもはや、自分が義と認められるための行いではなく、すでに信仰によって義とみなされている中で、信頼が増し加わり、行いが出てくるのです。